



木曽林務課だより 2月号

治山事業へのGISシステムの活用

いま私たちの日常生活は、自動車のカーナビなどに利活用されているGPS（地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る測位システム）や、GIS（デジタル地図の画面上に様々な情報を重ねていろいろな分析を行うシステム）など、デジタル技術の進歩から大きな恩恵を受けています。

長野県ではこれらの技術を活用して、GISシステムを構築し利用していますが、一部の治山施設については位置情報が実際の位置と相違し、また詳細な情報の欠落があるなど、本格的な利活用にはなお課題を残しているのが現状です。

今後はトンネルや橋など既存公共施設のインフラ長寿命化対策が本格化しますが、修繕等の計画を策定するうえで既存施設の正確な位置情報や、施工年、構造、規格などの詳細情報は重要な因子となります。

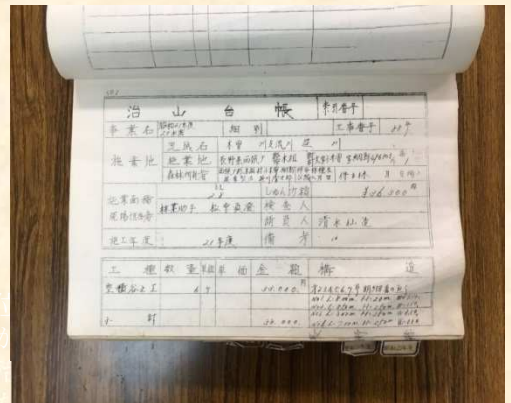
このような状況から長野県では平成27年度から谷止工などの位置情報の修正や詳細情報の付加作業を進めており、木曽管内では平成28年度に作業を行いました。

修繕計画の策定にあたっては、当然ながら現地調査を省略することはできませんが、膨大な数の施設の中から緊急性など優先順位等を決定する際の、効率的な目安になるものと期待しています。

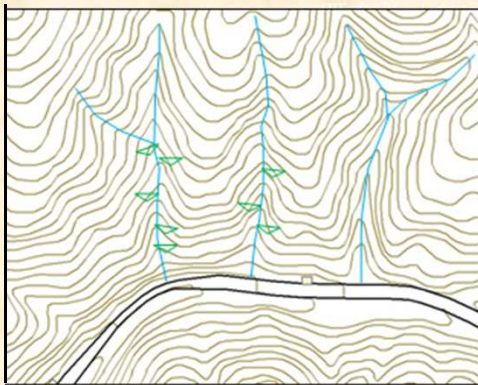
施工年や構造、規格などの
詳細情報が記録されている→



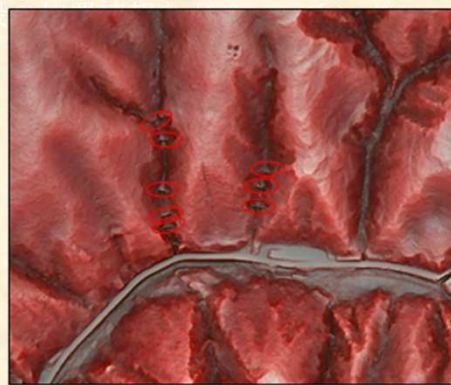
↑紙ベース時代の治山台帳
(昭和21年～45年分)



既存治山施設の位置情報などのマッチング



国土地理院基本図上の治山施設位置情報
(実際の位置情報と微妙な相違がある)



赤色立体図上で判別できる既存治山施設
(位置画像のみで情報は何もない)

課長のつぶやき



木曽の山をめぐる暮らし 4 山の神

「うちの山の神がうるさくて・・・」のように奥さんのことを山の神と言います。これにも由来があります。

昔、吉野のあるお宅、毎朝、山仕事に出る旦那さんが小ざっぱりと身支度を整えて出ることを怪しく思った奥さんが後をつけていきました。旦那さんは岩山の危険な場所で木を伐っていました。よく見るとその背中を女の人が支え、落ちないように助けています。次の言葉は今も昔も「何しているのあんた！」でしょう。支えていた女の人はずっと消えて、旦那さんは落ちて亡くなってしまいました。

そのことがあって、姿は見えないかもしれませんが旦那さんの安全を見守っている女性を「山の神」と呼ぶようになったのです。
(松原)